

ベルマーク新聞 11月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都墨田区両国3-25-5 JEI両国ビル9階 〒130-0026 電話 03-5638-2320(代表)
郵便振替口座 00100-7-56035 ホームページ <https://www.bellmark.or.jp/>

新しい絵本とベルマークが届きました

画家・喜田川昌之さん 伊豆のわらべ絵館を訪ねて



①新しい絵本を手に持った喜田川昌之さん ②三原色(赤緑青)と黒白が全て混ざった壁の色は、どの絵にもマッチする。コルクの床やアーチ状の入り口も特徴的 ③誰もが投函できるよう、外に設置されているベルマークポスト ④喜田川さんが担当していたベルマーク手帳の表紙絵(左から2015年度版、2016年度版、2017年度版)

子ども時代の懐かしい日常を温かく描く「わらべ絵」の画家、喜田川昌之さんから、サイン本とともにベルマークが寄贈されました。

喜田川さんはベルマーク手帳の表紙を手がけたり、ベルマーク新聞に長年まんがを連載したりと、財団とも縁が深い画家です。静岡県伊東市の伊豆高原にある自宅1階はミュージアム「喜田川昌之わらべ絵館」として人気の観光スポット。緊急事態宣言が解除された10月、長らく閉館していたわらべ絵館が再開したと聞き、訪ねてみました。

伊豆急行の伊豆高原駅から徒歩約10分で、わらべ絵館に着きます。この夏に出版したばかりの「絵本で知ろう二十四節気 夏」の原画が展示されていました。財団に送ってくれた本です。二十四節気は、春夏秋冬をさらに6つずつに分けて季節を表したものです。絵を楽しみながら

季節の言葉を学ぶことが出来ます。

喜田川さんは三重県一志郡にある高岡地区(現・津市一志町)の出身。「田んぼがあったなあ。昔は車社会じゃなかったから、本当に音がなかった。夜、高いところを飛ぶヨタカの鳴き声は怖かったな」と幼少時代を振り返ります。

三重の実家で喜田川さんは、子どもたちにお絵描きを教えたりしていたそうです。大学進学で上京し、漫画研究会に所属。新聞社と縁ができ、その関係で訪問したへき地の小学校の先生の教育熱心に感銘を受けたと言います。

卒業後はいったん地元に戻りますが、その後再度上京し、イラストや挿し絵の仕事をしていました。同時に、近所の子どもたちと絵を通して交流。それが発展して月謝制の「四畳半のお絵かき教室」を開講しました。伊豆に仕事の拠点を移すまで20年ほど続いたそうです。「週

に一回、大人と子どもの間を行き来した」ことは、のちに手がける「わらべ絵」に大きく影響しました。

喜田川さんは1985年からベルマーク新聞に4コマまんが「ベルちゃん」の連載を始め、2018年1月号まで計366回続けてくれました。財団のへき地校支援事業「心の目で描こう体験塾」でもお絵描き講師を12年間務め、計44校を訪れました。授業では袋の中に切ったれんこんを入れ、触覚で得たヒントのみで描く「さぐり絵」の試みも。触った手を嗅いだ子が瞬時に「土のおいがする」と言うのを聞き、感覚の鋭さに驚いたこともあったそうです。

「以前、『新人類』という言葉があったけど、そう思い込んでしまうのは怖いね。子どもの本質って変わってなくて、変化したのは環境や音なんだよね」

子どもを取り巻く環境は大きく変化し

ましたが、「感性」という本質は変わらないまま、人は大人になっていくのでしょう。それが、「わらべ絵」に大人が懐かしさを感じる理由なのかもしれません。

ミュージアムの門の横には「ベルマークポスト」があり、地域の方が通りすがりにベルマークを入れてくれます。ある程度貯まったタイミングで喜田川さんが財団に送ります。今回いただいたベルマークも、そうして集まったものでした。みなさん、ありがとうございました。

◇

※「絵本で知ろう二十四節気 夏」文・筆文字：ふじもとみさと／絵：喜田川昌之／文研出版刊、1500円＋税。
※「喜田川昌之わらべ絵館」静岡県伊東市八幡野1208-59／午前10時～午後4時30分、火・水定休(祝日、夏休み、正月は開館、12月1日～31日は休館)／高校生以上700円、小・中学生400円、70才以上500円。ペット可。

ベルコン2021、応募総数は110通

前年度の倍近く／入賞22校を決定

「ベルマーク便利コンクール」の2021年度入賞校が決まりました。

ベルマーク活動を学校内外に伝える印刷物・冊子などが対象で、1986年に始まり、今年度で36回目を数えます。最近では動画やSNS画面による応募もあり、時代の移ろいを感じさせます。

今回の応募総数は110通。コロナ禍の影響で応募が減り59通だった昨年度の倍近くを記録しました。でも、作品に添えられたお手紙を読むと、まだまだ十分に活動

再開できていないところが多かったです。それでも様々な工夫を凝らした内容に、財団職員は感動の気持ちでいっぱいになりました。コンクールなのでやむなく審査し、優秀賞10校、佳作7校、特別賞5校を決めました。コロナ禍が続く状況の中でも応募して下さった皆様に感謝申し上げます。

入賞校は新聞3面に掲載しています。2022年度コンクールへの応募も始まっていますので、よろしくおねがいします。



優秀賞を受賞した葉山町立葉山小の「ベルきつず通信」では、ベルマーク運動の持つふたつの役割も紹介されている